

令和3年度学校自己評価システムシート (県立上尾特別支援学校)

目指す学校像	キャリア教育を推進し、豊かに生きる力を育てる学校
--------	--------------------------

重点目標	1 個に応じた授業づくりとキャリア教育の視点を生かした教育課程の編成・実施による質の高い学校教育の充実 2 地域との連携とセンター的機能の充実 3 安心安全な学校づくりの推進 (危機管理、不祥事防止と教職員の働き方)
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					年度評価(2月1日現在)		
年度目標					評価項目の達成状況		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	達成度	次年度への課題と改善策	
1	【現状】 研修会や研究協議を通して「主体的・対話的で深い学び」の視点を活かした授業実践について認識が深まった。 【課題】 「主体的・対話的で深い学び」の視点を活かしたわかりやすい授業について効果的な実践を実施し、本校の実績として積み上げる必要がある。	わかりやすい授業を実践するための指導・支援方法を整理し、授業実践を行う。	①わかりやすい授業を実践するための指導・支援方法(環境設定、ICTの活用、実態把握)について研修会を6回行い、報告会を通して成果を共有する。(3月)<研究部> ②研修を通して、授業チェックリスト等の共通ツールを作成し、活用する。(1月)<研究部>	①わかりやすい授業を実践するための指導・支援方法について整理し、報告会を通して成果を共有することができたか。 ②研修を通して、授業チェックリスト等の共通ツールを作成し、活用することができたか。			
	【現状】 自閉症等の障害理解が深まり、一人一人の教育的ニーズに合わせた支援など専門性の向上が見られる。 【課題】 自閉症等の障害理解をより一層深めるとともに、適切なアセスメントを実施し、個に応じた環境を設定することで教育活動の充実を図る必要がある。	自閉症等の障害理解を深め、個に応じた指導・支援の実践を行う。	①特別非常勤講師と共に児童生徒の実態を見立て、個に応じた具体的な指導支援を実践する。(5月~)<校内支援委員会> ②全校研修会等を通して、成果と課題を教職員全体で共有し、指導・支援方法を改善する。(2月)<研究部>	①特別非常勤講師と共に児童生徒の見立てと個に応じた指導支援を実践することができたか。 ②成果と課題を教職員全体で共有できたか。			
2	【現状】 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、オンラインでの交流等新たな方法で教育活動を実施している。 【課題】 オンライン活用の幅を広げるとともに、交流および共同学習の内容について交流校との連携を深め、さらに充実させる必要がある。	地域とのつながりや地域での活動等を大切にしながら教育活動を実施する。	①交流校との連携を十分に図り、交流及び共同学習を行う。(小3回、中1回、高1回実施予定)<学部> ②地域で継続的に活動できる機会と活動場所を充実する。(通年)<進路指導部・高等部> ③大学等と連携し、外国人ボランティアを受け入れる(12月)<中学部>	①交流及び共同学習を実施し、児童生徒の意識や行動に変容が見られたか。 ②事業所見学等、地域の理解を得て活動する機会を実施し、児童生徒の意識や行動に変容が見られたか。 ③大学等と連携し他国の文化に触れる授業が実践できたか。			
	【現状】 感染症対策の徹底が必要なため、巡回相談の回数は減少傾向だが実効性の高い支援方法について発信することができている。また、校内でのケース会の必要性も高い。 【課題】 外部機関との連携及び校内外の支援をより進める必要がある。	校内外支援体制を充実する。	①巡回相談やケース会等の実施と校内外支援の情報共有並びに個々の課題への対応を行う。(通年)<支援部・校内支援委員会>	①近隣諸学校並びに校内において、適切な支援と情報を共有し、個々の課題が改善・解決されたか。			
3	【現状】 ヒヤリハット報告書を活用した情報共有が定着してきた。また防災管理部を中心に危機管理マニュアルの改訂を進めた。 【課題】 改訂した危機管理マニュアルを適切に活用し、学校の安全性をさらに高めていく必要がある。	災害等における危機管理意識を高め、緊急時には組織で対応する。	①新型コロナウイルス感染症対策を徹底する。<企画委員会・保健部> ②危機管理マニュアルに基づいた研修を実施する。(通年)<防災管理部、指導部、保健部、情報教育部>	①県のガイドライン等を基に本校の実態に合わせた感染症対策が徹底できたか。 ②マニュアルを活用した研修を実施し、周知徹底を図るとともに、組織的な対応ができたか。			
	【現状】 研修会等を通して不祥事防止の意識づけはできている。ふれあいデーの定時退勤を推奨するための取組を行っている。 【課題】 教職員の働き方を改革することで児童生徒に対して効果的な教育活動を行う必要がある。また、不祥事防止を引き続き徹底する必要がある。	働き方改革の意識を醸成することで、業務を改善する。また不祥事防止の意識をさらに高める。	①学校閉庁日の設定(8月)、ふれあいデーの推奨や会議の効率化等を行う。<企画委員会・衛生委員会・分掌・学部> ②不祥事防止研修会を行うとともに日頃からの注意喚起を行う。(通年)<企画委員会・衛生委員会>	①教育活動の必要性を踏まえたうえで、ふれあいデーの推奨や会議の効率化等が行うことができたか。 ②不祥事防止ができたか。			

学校関係者評価		
実施日 令和 年 月 日		
学校関係者からの意見・要望・評価等		